東京外国語大学『語学研究所論集』29(49), 2024
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* 29(49), 2024

〈特集「受動表現」〉

ウォライタ語における受動表現
Passive expression in Wolaytta

若狭 基道
Motomichi Wakasa

跡見学園女子大学，白鷗大学，東京外国語大学非常勤講師
Part-time lecturer at Atomi University, Hakuoh University and Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿の目的は，特集「受動表現」(『語学研究所論集』第 14 号，2009，東京外国語大学）における 10 個のアンケート項目に対するウォライタ語のデータを提供することである．

Abstract: The purpose of this paper is to offer the Wolaytta data for the question of 10 phrases for the special volume of the Journal of the Institute of Language Research 14, which focuses on the cross-linguistic study of ‘passive expressions’.

DOI: https://doi.org/10.15026/0002001071
キーワード：ウォライタ語，受身，持ち主の受身，自動詞の受身
Keywords: Wolaytta, passive, possessor passive, intransitive passive

1. はじめに

ウォライタ語とは，アフロアジア大語族に属するとされるオモ系の言語であり，エチオピア南西部のウォライタ県（Zone）で話されている言語である．

以下のデータは同地で筆者が Asela Gujubo Gutulo 氏の協力を得て採集したものである．ここに記して感謝したい．無論，本稿に見られる不備は全て筆者が責任を負うべきものである．また，本研究は JSPS 科研費 JP19K00596 の助成を受けたものである．

例文の転写に於いては，原則として現地で採用されているラテン文字による表記を用いる．それによるとこの言語の音素は，p ~ f（自由変異），t，k，’ [ʔ]，s，sh [ʃ]，h，nh [h̃]，ch [ʧ]，b，d，g，z，zh [ʒ]，j [ʤ]，m，n，r [ɾ]，l，w，y [j]，ph [p’]，x [t’]，q [k’]，c [ʧ’]，dh [d’]，l’’ [l’:]，m’’ [m’:]，n’’ [n’:]，i，e，a，o，u である．大半の子音は重化し得る．子音連続においては 2 つ目の子音を表す文字（群）を 2 つ書くのが慣習なので（例，skk，rshsh），ここでもそれに従う．2 つの母音が結合されて長母音，二重母音を形成し得る．尚，二重母音は ay，awu 等と接近音を表す文字を利用して表記される．グロスを附す関係上，現地での表記とは異なり，ハイフン（-）により適宜形態素等の境界を示す．アクセントは音韻論的に有意義であるが，現地での表記に倣い，本稿では無視する．

グロスで使用した略号は以下である．ABS（absolutive，絶対格．他の格が使われない所で使われる無標の格で，例えば動詞の直接目的語や肯定平叙名詞述語文の述語に使われる形である．いわゆる「能格 ergative」と対になる格ではない），COM（comitative，共格後置詞），CVB（converb，副動詞形.「～して」

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

の意味），DAT（dative，与格後置詞），F（feminine，女性），INF（infinitive，不定詞），INTER（interrogative，疑問形），IPFV（imperfective，未完了形），LOC（locative，場所格後置詞．時や道具等も表す），M（masculine，男性），NEG（negative，否定），NMLZ（nominalizer，形式体言），NOM（nominative，主格），NSBJ（non-subject oriented，非主語指向形．関係節の主要部が連体形動詞の主語になっていない時の形），OBL（oblique，斜格．後続する名詞句を修飾する際の格），OPT（optative，希求（命令）形），PASS（passive，受身．相互等の他の意味も表し得る），PFV（perfective，完了形），PL（plural，複数），PROX（proximal，近称），REFL（reflexive，再帰代名詞），REL（relative，関係節形（連体形）），SG（singular，単数），SIM（simultaneous，同時形），SUBOR（subordination marker，従属節標識），1（first person，1 人称），2（second person，2 人称），3（third person，3 人称）．

ウォライタ語の全体像あるいは詳細に関しては，Wakasa (2020)を参照されたい．

1-1　A は B に叩かれた．（直接受身）

(1-1-1)

Adab-a	Balgg-u-n	desh-ett-aasu.
(女性人名)-NOM	(男性人名)-OBL-LOC	叩く-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに叩かれた」

対応する能動文は以下である．

(1-1-2)

Balgg-u	Adab-o	dechch-iis.
(男性人名)-NOM	(女性人名)-ABS	叩く-PFV.3SG.M

「バルゴはアダバを叩いた」

即ち，受動文(1-1-1)では

A: 能動文で使われる動詞語幹の後ろに，受身等を表す接尾辞-ett[1]がある．
B: 動作主を表す名詞句は，能動文の様に主格で現れるのではなく，斜格で現れ，その直後に場所等を表す後置詞-n(i)を伴う．
C: 対応する能動文で絶対格で現れる目的語に相当するものが主格で現れ，主語となっている．

上記の条件を満たすものが，ウォライタ語の典型的な受動文であると言える．受動文と対応する能動文の関係を図式化して纏めると，以下の様になる．

受動文：Y（NOM）　X（OBL）-n(i)　V-ett
能動文：X（NOM）　Y（ABS）　V

アムハラ語の場合，原則として能動文の使用が好まれるが（若狭 2024），同じエチオピアの言語でも

[1] -ett の附加に際し，語幹末の重子音は単子音になるのが原則である（例，imm-「与える」，im-ett-「与えられる」）．また，若干の音変化を伴う場合もあり，(1-1-1)と(1-1-2)に見られる dechch-「叩く」，desh-ett-「叩かれる」もその例である．

ウォライタ語の場合はそのような違いはないようである．つまり，受動文(1-1-1)も能動文(1-1-2)も，どちらもそれ自体で自然な文である．

但し，常にある他動詞の-ett 派生形が受動文に使われるとは限らない．例えば mentt-「壊す」に対する受動文で使われる動詞は me”-「壊れる，壊される」，shiishsh-「集める」に対しては shiiq-「集まる，集められる」である．つまり，対応する自動詞を使うと言って良いかと思われる．

(1-1-3)

Raadoon-ee	Balgg-u-n	me”-iis.
ラジオ-SG.M.NOM	(男性人名)-OBL-LOC	壊れる-PFV.3SG.M

「ラジオがバルゴによって壊された」

(1-1-4)

Balgg-u	raadoon-iya	mentt-iis.
(男性人名)-NOM	ラジオ-SG.M.ABS	壊す-PFV.3SG.M

「バルゴがラジオを壊した」

(1-1-5)

Giir-ay	kawotett-a-n	(taa-ppe)	shiiq-iis.
税金-SG.M.NOM	政府-SG.M.OBL-LOC	1SG.OBL-ABL	集まる-PFV.3SG.M

「税金が政府によって（私から）徴収された」

(1-1-6)

Kawotett-ay	(taa-ppe)	giir-aa	shiishsh-iis.
政府-SG.M.NOM	1SG.OBL-ABL	税金-SG.M.ABS	集める-PFV.3SG.M

「政府が（私から）税金を徴収した」

また，-ett の表す意味は受身とは限らない．相互動作や動作の複数性を表すために-ett が使われることもある．従って，例えば mentt-ett-や shiish-ett-が無い訳ではない．

(1-1-7)

Naa”-u	naati	kees-ett-i-n	shuchch-ay	kush-iya-n
二-OBL	子供達 NOM	争う-PASS-SUBOR-LOC	石-SG.M.NOM	手-SG.M.OBL-LOC
wolqq-a-ppe	mentt-ett-iis.			
力-OBL-ABL	壊す-PASS-PFV.3SG.M			

「二人の子供が争っていた時に，石が手により力尽くで（幾つかの過程を経て）割られた」

ここで最後の動詞を me”-にしたら，「単に割れた」という意味になる．

(1-1-8)
Dar-o　miishsh-ay　giir-a　wod-iya-n　kaw-oy
多い-OBL　金銭-SG.M.NOM　税金-OBL　時-SG.M.OBL-LOC　王-SG.M.NOM
kiitt-i-n　der-iya　gidd-o-ppe　shiish-ett-iis.
送る-SUBOR-LOC　人々-SG.M.OBL　中-OBL-ABL　集める-PASS-PFV.SG.M
「多くのお金が，税金の時期に王が（誰かを）派遣して民衆の中から徴収された」

上では-ett により動作の複数性が，即ち「あちこちから集められた」「次々と上へ上納されて行った」というニュアンスが表されている．

1-2　A は B に足を踏まれた．（持ち主の受身，体の部分）

(1-2-1)
Adab-a　ba　toh-uwa　Balgg-u-n　yer-ett-aasu.
(女性人名)-NOM　REFL.3SG.OBL　足-SG.M.ABS　(男性人名)-OBL-LOC　踏む-PASS-PFV.3SG.F
「アダベはバルゴに自分の足を踏まれた」

意味上対応する能動文は例えば以下である.「踏む」という動詞語幹は-ett が附く前は yedhdh-である．

(1-2-2)
Balgg-u　Adab-i　toh-uwa　yedhdh-iis.
(男性人名)-NOM　(女性人名)-OBL　足-SG.M.ABS　踏む-PFV.3SG.M
「バルゴはアダベの足を踏んだ」

(1-2-3)
Balgg-u　Adab-o　toh-o-sso　bagg-aa-ra　yedhdh-iis.
(男性人名)-NOM　(女性人名)-ABS　足-OBL-辺り　部分-SG.M.OBL-COM　踏む-PFV.3SG.M
「バルゴはアダベを足の辺りにおいて踏んだ」

上に限らず，この言語では身体部分を目的語とした持ち主受身が広く可能である．以下はその例である．

(1-2-4)
Ba　siir-iya　desh-ett-aasu.
REFL.3SG.OBL　鼻-SG.M.ABS　叩く-PASS-PFV.3SG.F
「彼女は自分の鼻を叩かれた」

(1-2-5)
Ba　kush-iya　sa’-ett-aasu
REFL.3SG.OBL　手-SG.M.ABS　噛む-PASS-PFV.3SG.F
「彼女は自分の手を噛まれた」

(1-2-6)

Ba	ayf-iya	kam-ett-aasu.
REFL.3SG.OBL	目-SG.M.ABS	覆う-PASS-PFV.3SG.F

「彼女は自分の目を覆われた」

(1-2-7)

Adab-a	Balgg-u-n	ba	toh-uwa	bosh-ett-aasu.
(女性人名)-NOM	(男性人名)-OBL-LOC	REFL.3SG.OBL	足-SG.M.ABS	触る-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに自分の足を触られた」

(1-2-8)

Adab-a	Balgg-u-n	ba	dull-iya	be’-ett-aasu.
(女性人名)-NOM	(男性人名)-OBL-LOC	REFL.3SG.OBL	尻-SG.M.ABS	見る-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに尻を見られた」

以下は目的語が表しているものが身体部分とは言い難いため，受動文は成立しない（但し，持ち物を目的語とした受動文に関しては次節 1-3 を参照）.

(1-2-9)

* Ba	cenggurss-aa	siy-ett-aasu
REFL.3SG.OBL	声-SG.M.ABS	聞く-PASS-PFV.3SG.F

（意図された意味）「彼女は自分の声を聞かれた」

(1-2-10)

* Ta	suntt-aa	moor-ett-aas.
1SG.OBL	名前-SG.M.ABS	駄目にする-PASS-PFV.1SG

（意図された意味）「私は私の名前を汚された」

1-3　A は B に財布を盗まれた.（持ち主の受身，持ち物）

(1-3-1)

Adab-a	ba	borss-aa	Balgg-u-n	wuuq-ett-aasu.
(女性人名)-NOM	REFL.3SG.OBL	財布-SG.M.ABS	(男性人名)-OBL-LOC	盗む-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに自分の財布を盗まれた」

上から分かるように，この言語では持ち物の持ち主の受身が可能である．対応する能動文としては，例えば以下が考えられる.

(1-3-2)

Balgg-u	Adab-i	borss-aa	wuuqq-iis.
(男性人名)-NOM	(女性人名)-OBL	財布-SG.M.ABS	盗む-PFV.3SG.M

「バルゴはアダベの財布を盗んだ」

(1-3-3)

Balgg-u	Adab-i-ppe	borss-aa	wuuqq-iis.
(男性人名)-NOM	(女性人名)-OBL-ABL	財布-SG.M.ABS	盗む-PFV.3SG.M

「バルゴはアダベから財布を盗んだ」

文脈の支えがあれば，以下のように持ち主を直接目的語とした能動文も可能である．

(1-3-4)

Bagll-u	Adab-o	wuuqq-iis.
(男性人名)-NOM	(女性人名)-ABS	盗む-PFV.3SG.M

「バルゴはアダベから（何かを）盗んだ」

但し上は，文脈の支えが無ければアダベ自身を盗んだ，即ち「バルゴはアダベを誘拐した」という意味にもなる．

アムハラ語と同様に（若狭 2024: 39），この言語も「窃盗」を表す動詞でこの種の受動文が広く可能である．

(1-3-5)

Adab-a	ba	miishsh-aa	bog-ett-aasu.
(女性人名)-NOM	REFL.3SG.OBL	金銭-SG.M.ABS	掠奪する-PASS-PFV.3SG.F

「アダベは自分のお金を掠奪された」

(1-3-6)

Adab-a	ba	miishsh-aa	Balgg-u-n	m-eetett[2]-aasu.
(女性人名)-NOM	REFL.3SG.OBL	金銭-SG.M.ABS	(男性人名)-OBL-LOC	食べる-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに自分のお金を騙し取られた（lit. 食べられた）」

但し，持ち主の受身が成立する条件はアムハラ語よりも広く，ポイントは持ち物の持ち主から動作主への移動にあるらしい．従って，例えば必ずしも窃盗や強奪を意味しない ekk-「取る」に関してもこの種の受動文が成立する．下の(1-3-7)は，贈与や返済に関する表現である（但し，強奪をも意味し得る）．アムハラ語の対応する動詞ወሰደ wässäd-ä「取る」では持ち主の受身が成立しないことに関しては，若狭(2024: 39)を参照されたい．

(1-3-7)

Adab-a	ba	miishsh-aa	Balgg-u-n	ek-ett-aasu.
(女性人名)-NOM	REFL.3SG.OBL	金銭-SG.M.ABS	(男性人名)-OBL-LOC	取る-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに自分のお金を取られた（i.e. 与えた/返した/奪われた）」

以下から分かるように，oychch-「求める，尋ねる」も持ち主受身が可能である．これも持ち物「税金

[2] 語幹が子音 1 つの動詞 m-「食べる」に対する受身接辞は-ett ではなく，-eetett となる．(1-10-1)に見られる g-「言う」の場合も同様である．

として支払う金銭」の持ち主「私」から動作主「政府」への移動を表していると言なくもない.

(1-3-8)
Taani　kawotett-a-n　giir-aa　oysh-ett-aas.
1SG.NOM　政府-SG.M.OBL-LOC　税金-SG.M.ABS　求める-PASS-PFV.1SG
「私は政府に税金を求められた」

但し，これに対応する能動文では，持ち主も持ち物も共に絶対格を取り得る．すると，能動文の絶対格名詞が受動文で主語（主格名詞）となる点で，(1-3-8)は 1-1 で扱った典型的な受動文の一種と言える.

(1-3-9)
Kawotett-ay　tana　giir-aa　oychch-iis.
政府-SG.M.NOM　1SG.ABS　税金-SG.M.ABS　求める-PFV.3SG.M
「政府は私に税金を求めた」

移動するものが狭い意味での「持ち物」ではなく，抽象的なものであったり人間であったりしてもこの種の受動文は可能である.

(1-3-10)
Na’-iya　ba　geela’otett-aa　wodall-a-n　ek-ett-aasu.
子供-SG.F.NOM　REFL.3SG.OBL　処女性-SG.M.ABS　青年-SG.M.OBL-LOC　取る-PASS-PFV.3SG.F
「その少女は青年に処女を奪われた」

(1-3-11)
Taani　ta　na’-iyo　bog-ett-aas.
1SG.NOM　1SG.OBL　子供-SG.F.ABS　掠奪する-PASS-PFV.1SG
「私は娘を掠奪された」

但し，(1-3-11)は，言葉としては正しいが，ウォライタの社会で実際にこうしたことが起こるのは考え難く，その意味で，不自然な文であるとのことである．また，伝統的な掠奪婚を表す動詞 daf-「（結婚のために）掠奪する」からはこの種の受動文を作れない．動作の対象が誰かの持ち物ではなく，あくまでも少女その人であるからと思われる．但し，譬喩的な用法は別であり，持ち主の受身が成立する.

(1-3-12)
* Taani　ta　na’-iyo　daf-ett-aas.
1SG.NOM　1SG.OBL　子供-SG.F.ABS　掠奪婚する-PASS-PFV.1SG
（意図された意味）「私は娘を結婚のために掠奪された」

(1-3-13)
Taani　ta　baac-aa　daf-ett-aas.
1SG.NOM　1SG.OBL　鎌-SG.M.ABS　掠奪婚する-PASS-PFV.1SG
「私は鎌を奪われた」

先程述べたように，持ち主の受身成立のポイントは持ち物の持ち主から動作主への移動にある．よって，持ち主に対する損害・被害が発生しても，そのような移動が無い場合，持ち主受身は成立しない．

(1-3-14)
* Ba keett-aa xuug-ett-aasu.
REFL.3SG.OBL 家-SG.M.ABS 燃やす-PASS-PFV.3SG.F
（意図された意味）「彼女は自分の家を燃やされた」

(1-3-15)
* Ba na’-aa wor-ett-aasu
REFL.3SG.OBL 子供-SG.M.ABS 殺す-PASS-PFV.3SG.F
（意図された意味）「彼女は自分の息子を殺された[3]」

(1-3-16)
* Adab-a Balgg-u-n ba raadoon-iya me’’-aasu.
(女性人名)-NOM (男性人名)-OBL-LOC REFL.3SG.OBL ラジオ-SG.M.ABS 壊れる-PFV.3SG.F
（意図された意味）「アダベはバルゴに自分のラジオを壊された」

1-4 昨日の夜，私は赤ん坊に泣かれた．それでちっとも眠れなかった．（自動詞からの間接受身）

(1-4-1)
Zin-o qamm-i yiir-a na’-ay yeekk-iis.
昨日-ABS 夜-ADV 乳幼児-OBL 子供-SG.M.NOM 泣く-PFV.3SG.M
Yaan-i-n ayb-a-kka xiskk-an-a-wu dandday-abeikke.
そうする-SUBOR-LOC 何-ABS-も 眠る-INF-SG.M.OBL-DAT 出来る-NEG.PFV.1SG
「昨日の夜，赤ん坊が泣いた．そうした時に，私は全く眠れなかった」

このような被害を表す文脈では，ウォライタ語は受動文を用いない．被害のニュアンスは，2 文目の意味から推論されるのみである．

但し，動詞 yeekk-「泣く」の-ett 派生形自体は存在する．

(1-4-2)
A aaw-aa-ssi hayqq-ido gall-a dar-o yeek-ett-iis.
3SG.M.OBL 父-SG.M.OBL-DAT 死ぬ-REL.PFV.NSBJ 日-ABS 多い-ABS 泣く-PASS-PFV.3SG.M
「彼の父親が亡くなった日に，彼のために大いに泣いた」

上の文では，誰が泣いたのかは不明瞭であるが，-ett により泣くという動作の複数性が表され，それに伴い悲しみの程度が強調されている．

一般に自動詞の-ett 派生形は，受身ではなく，動作の複数性や一般論としての可能性等を表す．動詞

[3] この文が成立しない理由として，少なくとも場合によっては wor-ett-「殺される」自身が好まれず，hayqq-「死ぬ」の使用が好まれることが関係しているかも知れない．1-1 の自動詞を使う受動文の議論を参照されたい．無論，ここでは hayqq-aasu（死ぬ-PFV.3SG.F）は使えない．

や文脈によっては，未完了形は自然でも完了形が不自然となる場合があるが，恐らくこのことと関係していると思われる．

(1-4-3)
Ha-g-aa-ni　sar-uwa-n　xiskk-ett-enna.
PROX-NMLZ-SG.M.OBL-LOC　平和-SG.M.OBL-LOC　眠る-PASS-NEG.IPFV.3SG.M
「ここでは平和に眠れない」

(1-4-4)
* Ha-g-aa-ni　sar-uwa-n　xiskk-ett-ibeenna.
PROX-NMLZ-SG.M.OBL-LOC　平和-SG.M.OBL-LOC　眠る-PASS-NEG.PFV.3SG.M
（意図された意味）「ここでは平和に眠れなかった」

以上の例文では主語名詞句がはっきりと現れていないが，一般に自動詞の-ett 派生形を用いた文の主語はその動詞と同根の名詞である．よってこの種の文は，「同根名詞の表す意味が（ということはその動詞の表す動作が）-ett のニュアンス（動作の複数性等）を伴って遂行される」，という意味を表す．そのように考えれば，受動文の一種と考えても良いであろう．

(1-4-5)
Der-e　yeeh-oy　ba　wod-iya-n　yeeh-ett-iis.
民衆-OBL　泣く事-SG.M.NOM　REFL.3SG.OBL　時-SG.M.OBL-LOC　泣く-PASS-PFV.3SG.M
「大勢がその時に一斉に（or 次々と）泣いた（lit. 民衆の泣くことがその時に泣かれた）」

(1-4-6)
Ooy-ett-i-shin　sigett-i-shin
喧嘩する-PASS-SUBOR-～する時に　和解する-SUBOR-～する時に
de’-oy　de’-ett-iis.
暮らすこと-SG.M.NOM　暮らす-PASS-PFV.3SG.M
「喧嘩したり仲直りしたりして暮らした（lit. 暮らしが暮らされた）」

動詞と同根の名詞はかなり具体的な，特殊化された意味を持つこともある．(1-4-6)の de’-oy「暮らすこと」＝「暮らし，生活」もその一例と言える．

(1-4-7)
Yeeh-oy　yeek-ett-iis.
葬儀-SG.M.NOM　泣く-PASS-PFV.3SG.M
「葬儀（＜泣くこと）が行われた」

あるいは，移動を表す動詞の場合，到着点を表す語が主語となることもある．

(1-4-8)
Dar-o　wolqqaam-a　ir-ay　bukk-i-shin
多い-OBL　強い-OBL　雨-SG.M.NOM　叩く-SUBOR-～する時に
Soodd-oy　as-a-n　gak-ett-iis.
(地名)-NOM　人々-SG.M.OBL-LOC　到着する-PASS-PFV.3SG.M
「非常に烈しい雨が降っている時に，人々がソドに到着した」

網羅的な調査は出来ていないが，以上のような自動詞受動文の主語（述語動詞と同根の名詞や移動の到着点を表す語）を絶対格名詞とした対応する能動文が存在する場合がある．その場合には，1-1 で挙げた典型的な受動文に関する図式が当て嵌まることになり，その意味では典型的な受動文と言える．

(1-4-9)
Ooy-ett-iiddi-nne　sigett-iiddi　de’-uwa　de’-iis.
喧嘩する-PASS-SIM.3SG.M-と　和解する-SIM.3SG.M　暮らすこと-SG.M.ABS　暮らす-PFV.3SG.M
「彼は喧嘩したり仲直りしたりして暮らしを暮らした」cf. (1-4-6)

(1-4-10)
Soodd-ó　gakk-aas.
(地名)-ABS　到着する-PFV.1SG
「私はソドに到着した」cf. (1-4-8)

現段階では極めて主観的なことしか言えないが（だが，極めて重要なことであると思われる），本節 1-4 で扱った類の自動詞の受動文は，筆者はウォライタの日常生活での言葉の中で聞いた記憶がない．集めたテキストの中にも出て来た記憶がない．だから，これらの自動詞受動文が能動文と較べて実際にどんなニュアンスの違いで使われるのか，等の詳細な点は不明である．今後も自然で自発的な実例を豊富に集めることは絶望的かと思われる．

だが，自動詞の-ett 形をこちらで作って言えるかどうか確かめると，言える，との答が返って来る．少なくとも筆者の 2 人の主たるインフォーマントとの調査ではそうであった．自動詞受身という可能性を持ちながらも，それを実際に利用することがほぼ無い言語がウォライタ語である，と言えるだろう．

1-5　新しいビルが（A によって）建てられた．（モノ主語受身，1 回的）

(1-5-1)
Ooratt-a　keett-ay　Dalgg-a-n　keex-ett-iis.
新しい-OBL　家-SG.M.NOM　(男性人名)-OBL-LOC　建てる-PASS-PFV.3SG.M
「新しい家がダルガによって建てられた」

上は全く自然な文である．少なくとも，Asela 氏の内省ではそうである．因みに対応する能動文は以下であり，これまた自然な文である．

(1-5-2)

Dalgg-i	ooratt-a	keett-aa	keexx-iis.
(男性人名)-NOM	新しい-OBL	家-SG.M.ABS	建てる-PFV.3SG.M

「ダルガが新しい家を建てた」

1-6　カナダではフランス語が話されている．（モノ主語受身，恒常的．動作主が問題にならない場合）

(1-6-1)

Kanaad-a	biitt-a-n	Faranssatt-oy	haasay-ett-ees.
(地名)-OBL	国-SG.M.OBL-LOC	フランス語-SG.M.NOM	話す-PASS-IPFV.3SG.M

「カナダではフランス語が話されている」

これまた次の能動文と共に何等の問題のない自然な文である．

(1-6-2)

Kanaad-a	biitt-a-n	as-ay	Faranssatt-uwa	haasay-ees.
(地名)-OBL	国-SG.M.OBL-LOC	人々-SG.M.NOM	フランス語-SG.M.ABS	話す-IPFV.3SG.M

「カナダでは人々はフランス語を話す」

なお，若狭(2024: 39)は，アムハラ語において動作主が問題にならない場合や不明の場合には T 派生形（要するに受身形）が極めて便利である点，述べている．だが，ウォライタ語の従属節形の多くは主語に応じた語形変化をしない．そのため，例えば「飲み物」という場合に，以下のように uy-「飲む」の能動形が自然に使われる（受身形が使われている若狭 2024: 39 の例文(1-6-2)と比較されたい）．

(1-6-3)

Uy-iyo-b-ay	shin,	ayb-i	y-o	g-ay?
飲む-REL.IPFV.NSBJ-物-SG.M.NOM	然し	何-NOM	来る-OPT.3SG.M	言う-INTER.IPFV.2SG

「で，飲み物は，何に致しましょうか（lit. 何が来るようにと貴方は言いますか）」

1-7　財布が（A に）盗まれた．（モノ主語受身，モノ主語の背後に被影響者が想定される）

(1-7-1)

Borss-ay	Balgg-u-n	wuuq-ett-iis.
財布-SG.M.NOM	(男性人名)-OBL-LOC	盗む-PASS-PFV.3SG.M

「財布がバルゴに盗まれた」

ここではアムハラ語の前置詞付き目的語接尾辞のような，財布の持ち主の被った被害・損害のニュアンスを端的に表す表現は無いらしい．Asela 氏によると，以下に見られる後置詞句は被害のニュアンスを表すとのことであるが，-ppe「～から」自体にそうしたニュアンスがあるのではなく，盗まれた財布の持ち主を表すので，結果として被害者を表しているだけであると思われる．

(1-7-2)

Borss-ay	ii-ppe	wuuq-ett-iis.
財布-SG.M.NOM	3SG.F.OBL-ABL	盗む-PASS-PFV.3SG.M

「財布が彼女から盗まれた」

1-8　壁に絵が掛けられている．（モノ主語受身，結果状態の叙述）

(1-8-1)

God-a-n	bul-ee	kaq-ett-iis.
壁-SG.M.OBL-LOC	瓢箪-SG.M.NOM	掛ける-PASS-PFV.3SG.M

「壁に瓢箪が掛けられている」

この文の末尾に見られる動詞の完了形は主として過去に行われた動作を表す形であるが，この文はその結果として今現在，壁に掛けられている状態をも表す．

1-9　A は B に／から愛されている．（感情述語の受身，特に動作主のマーカーに注目）

(1-9-1)

Adab-a	Balgg-u-n	siiq-ett-ausu.
(女性人名)-NOM	(男性人名)-OBL-LOC	愛する-PASS-IPFV.3SG.F

「アダベはバルゴに愛されている」

動作主はこれまでの例文と同じく，場所等を表す-n(i)「～に」を用いて表す．-ppe「～から」の使用は不可である．以下も同様である．

(1-9-2)

Adab-a	Balgg-u-n	dos-ett-aasu.
(女性人名)-NOM	(男性人名)-OBL-LOC	好く-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに好かれた」

1-10　A は B に／から「…」と言われた．（伝達動詞の受身，特に動作主のマーカーに注目）

(1-10-1)

Adab-a	Balgg-u-n	ayb-a-kko	ayb-a-kko	g-eetett-aasu.
(女性人名)-NOM	(男性人名)-OBL-LOC	何-ABS-か	何-ABS-か	言う-PASS-PFV.3SG.F

「アダベはバルゴに何々と言われた」

ここでも動作主を表すのに用いられる後置詞は場所等を表す-n(i)「～に」であり，-ppe「～から」は使えない．但し，Asela 氏が(1-9-1)よりも判断に若干時間が掛かったことを註記しておく．

尚, 対応する能動文において, (1-10-1)の主語は絶対格でも与格後置詞を伴った形でも現れ得る. 但し, 後者の場合は「アダベのために誰か他の人に言った」という別の意味でもあり得る.

(1-10-2)
Balgg-u　Adab-o　ayb-a-kko　ayb-a-kko　g-iis.
(男性人名)-NOM　(女性人名)-ABS　何-ABS-か　何-ABS-か　言う-PFV.3SG.M
「バルゴはアダベに何々と言った」

(1-10-3)
Balgg-u　Adab-i-ssi　ayb-a-kko　ayb-a-kko　g-iis.
(男性人名)-NOM　(女性人名)-OBL-DAT　何-ABS-か　何-ABS-か　言う-PFV.3SG.M
「バルゴはアダベに何々と言った」or「バルゴはアダベのために（他の誰かに）何々と言った」

1-10-a　A さんは B さんに呼ばれて，今 B さんの部屋に行っています.
(1-10-a-1)
Adab-a　Balgg-u-n　xeeg-ett-ada
(女性人名)-NOM　(男性人名)-OBL-LOC　呼ぶ-PASS-CVB.3SG.F
ha''-i　Balgg-u-s-o-n　d-ausu.
今-ADV　(男性人名)-OBL-場所-OBL-LOC　居る-IPFV.3SG.F
「アダベはバルゴに呼ばれて，今，バルゴの所に居る」

1-10-b　B さんが A さんを呼んで，A さんは今 B さんの部屋に行っています.
(1-10-b-1)
Balgg-u　Adab-o　xeeg-i-n
(男性人名)-NOM　(女性人名)-ABS　呼ぶ-SUBOR-LOC
ha''-i　Adab-a　Balgg-u-s-o-n　d-ausu.
今-ADV　(女性人名)-NOM　(男性人名)-OBL-場所-OBL-LOC　居る-IPFV.3SG.F
「バルゴがアダベを呼び，今，アダベはバルゴの所に居る」

Asela 氏によると，(1-10-a-1)も(1-10-b-1)も間違いではないが，前者の方が明瞭で好ましいとのことである．後者は何等かの文脈の支えによる共通理解が必要とのことである．あるいは y-aada (来る-CVB.3SG.F)「彼女は来て」等を補うと良いとのことである．

何故(1-10-a-1)の方が好まれるのか，理由は不明である．(1-10-b-1)では 2 つの節の主語が異なるためかも知れない．それに加えて，それにより従属節で副動詞形（xeeg-idi (呼ぶ-CVB.3SG.M)「彼は呼んで」）が使えず，代わりに動詞語幹に従属節化標識と場所格後置詞の続いた形（xeeg-i-n）が使われていることに着目しても良いかも知れない．これは主節と従属節の主語の異同を問わず副動詞形が使えるアムハラ語との大きな違いである（若狭 2024: 39 参照）．ウォライタ語のこの 2 つの従属節動詞の形は，Adams (1983: 213)ではどちらも punctilliar な従属節形で，主節と従属節の主語が同一か否かによる使い分けがあるのみとされている．所謂「交替指示 switch-reference」である（但し Adams はこの用語を用いていない）．だが，-i-n の方が副動詞形よりも表し得る意味の範囲が広く，そのため意味が不明瞭となっているためなのかも知れない．

参考文献

Adams, Bruce A. 1983. A tagmemic analysis of the Wolaitta language. Unpublished doctoral dissertation, University of London.

Wakasa, Motomichi. 2020. *A descriptive study of the modern Wolaytta language*. Tokyo: Hituzi Syobo.

若狭基道. 2024.「アムハラ語における受動表現」『語学研究所論集』28: 39

執筆者連絡先：motomichiwakasa@nifty.com

原稿受理：2024 年 11 月 7 日